

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2024年 第28週 (7/8-7/14) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	28週	27週	26週	25週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数 「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	5
	*インフル/COVID	28	28	28	27
	基幹	1	1	1	1

\*正式名称は  
インフルエンザ/COVID-19定点

定点	感染症名	千葉県					
		注意報	7/8-7/14	7/1-7/7	6/24-6/30	6/17-6/23	7/1-7/7
			28週	27週	26週	25週	27週
小児科	RSウイルス感染症		4 0.22	5 0.28	6 0.33	7 0.41	79 0.63
	咽頭結膜熱		8 0.44	9 0.50	6 0.33	9 0.53	85 0.68
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓↓	32 1.78	58 3.22	48 2.67	52 3.06	582 4.66
	感染性胃腸炎	↓↓	95 5.28	129 7.17	123 6.83	143 8.41	688 5.50
	水痘		6 0.33	1 0.06	0 0.00	5 0.29	34 0.27
	手足口病	★★★◎	489 27.17	411 22.83	211 11.72	119 7.00	1725 13.80
	伝染性紅斑		2 0.11	2 0.11	6 0.33	0 0.00	21 0.17
	突発性発しん		7 0.39	5 0.28	4 0.22	6 0.35	34 0.27
	ヘルパンギーナ	◎	85 4.72	65 3.61	40 2.22	18 1.06	395 3.16
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	4 0.22	1 0.06	11 0.09
*インフル/COVID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		3 0.11	5 0.18	1 0.04	3 0.11	95 0.47
	新型コロナウイルス感染症	○	187 6.68	158 5.64	118 4.21	98 3.63	2,203 10.91
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.40	0 0.00	3 0.60	28 0.80
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.67
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

## 2 全数報告対象疾患: 6 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	結核	女性	80歳代	IGRA検査
	男性	50歳代			男性	80歳代	病原体等の検出
	女性	50歳代		梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出

・第28週は、結核5例(93)、梅毒1例(41)の発生届があった。

※ ( )内は2024年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第28週のコメント

### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.78となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルで、年齢階級別の報告数は7歳が最多。区別では、緑区(4.00)が流行発生警報終息基準値(4.0)と並び最多で6歳の報告が最も多かった。

### <感染性胃腸炎>

前週より減少し5.28となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルで、年齢階級別の報告数は1歳が最多。区別では、緑区(12.33)からの報告が最多で5歳の報告が最も多かった。

### <手足口病>

前週より増加し27.17となった。流行発生警報開始基準値(5.0)を上回ったままであり、年齢階級別の報告数は1歳が最多。区別では、全区で流行発生警報開始基準値を上回り、若葉区(36.50)からの報告が最多で1歳の報告が最も多かった。

### <ヘルパンギーナ>

前週より増加し4.72となった。過去10年の同時期と比べると多めで、年齢階級別の報告数は2歳が最多。区別では、緑区(8.67)が流行発生警報開始基準値(6.0)を上回り最多で2歳の報告が最も多かった。他に若葉区(7.50)が流行発生警報開始基準値を上回った。

### <新型コロナウイルス感染症>

前週よりやや増加し6.68となった。年齢階級別の報告数は10-14歳及び40歳代が最多。区別では、中央区(11.20)からの報告が最多で50歳代の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2024.pdf>

・ 区別の発生グラフ

[https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph\\_ward2024.pdf](https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2024.pdf)

## ■ トピック ■

### <手足口病>

第28週の定点当たりの報告数は、流行発生警報開始基準値を上回ったまま前週より更に増加し27.17となり、現行の調査が開始された1999年以來の最多を更新しました。

感染経路は主として糞口感染を含む接触感染と飛沫感染です。感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあると考えられています。感染対策は、接触感染を予防するために手洗いをしっかりとすることと、排泄物を適切に処理することです。特に、保育施設などの乳幼児の集団生活では、感染を広げないために職員も子供達もしっかりと手洗いをしましょう。手洗いは流水と石けんで十分に行ってください。また、タオルの共用は避けましょう。

※手足口病については、第22週のトピックをご参照ください。

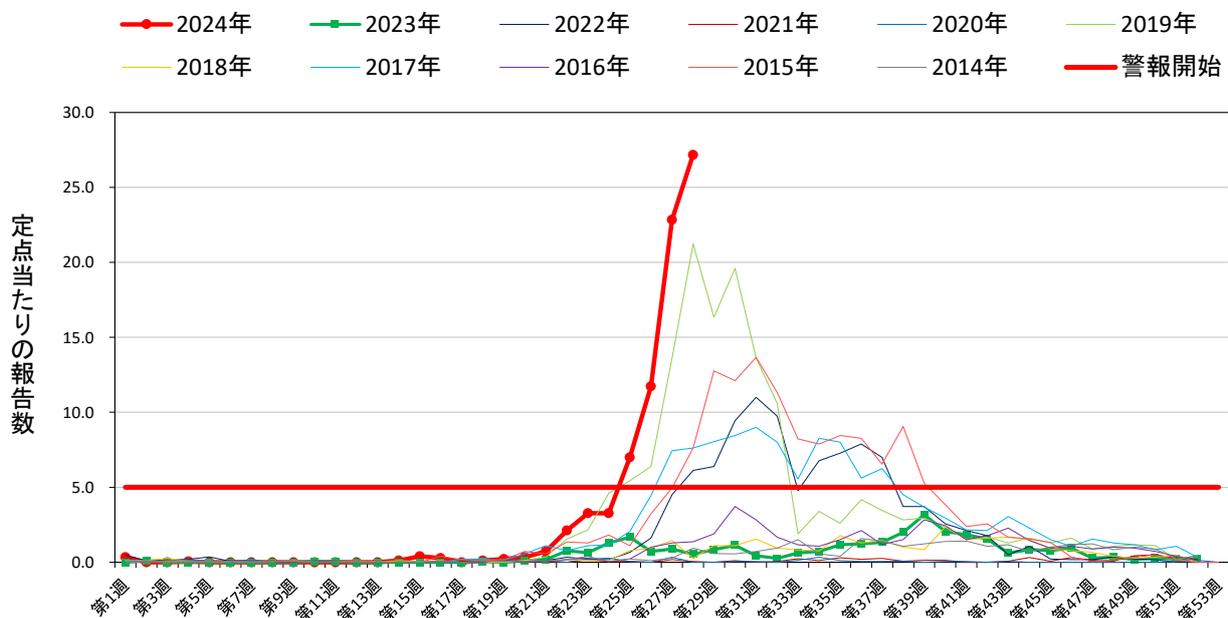


図 定点当たりの報告数(2014年第1週-2024年第28週)